



# 千葉県の魅力発信し 「関係人口」の創出を

宮坂議員 第2期千葉議員 地方創生総合戦略の本県煙草  
来人<sup>口</sup>をみると、2060年には527万5000人と  
2020年から40年間で0万人、16.1%減少する  
たる結果になつてゐる。これまで増加傾向であ  
た総人口も、中長期的には

ると、40年後には減少することが見込まれている。生産人口の流入を促し、流出を止める両輪で行動することが未来の千葉県の発展に必要になっている。

総務省の「これから移住・交流施策の在り方に関する検討会」で、地域やま

地域の人々と多様に関わる者である「関係人」に着目して、その重要性が議論された。そこでどうかがうが、地域の人々と多様に関わる者である「関係人」について、県の考えはどうか。

いく必要がある。そこでどうかがうが、県庁内のテレワークの現状はどうか。

# 6月定例県議会予算委員会



## 6月定例県議会予算委員会で質問する宮坂奈緒県議

住み良いふるさとづくりを田口指し、積極的な政治活動を続けていた宮坂奈緒県議（浦安市選出、1期）は、6月定例県議会予算委員会で質問に立ち、予測されている千葉県の人口減少について県担当者に対応策を聞き、地域や地域の人々と多様に関わる者である関係者の創出を提言しました。また、生活環境や栄養状態が悪化しているのに、それを改善しようという気力を失い、周囲に助けを求めるないセルフネグレクトについても質問しました。宮坂県議の質疑と県担当者の答弁を紹介します。

# 人口減の将来予測に対処

については、様々な地域活動の担い手となるだけでなく、将来的な移住者の増加につながることなどが期待されます。

ことから、今後も、地域の  
体験活動や伝統行事、お祭りなど、  
関係人口の増加に伴い、  
つながる情報を、テレビ、  
ラジオ、SNSなど様々な  
媒体を活用し、市町村と連携しながら発信してまいります。

# 定住人口の増加へ テレワークを推進

間で約7千人の職員が延べ約8万人を9回実施しています

**宮坂なお**事務所 TEL 047-355-7300  
FAX 047-355-7303  
〒279-0042 滝安市東原1-23-12 バリード滝安・イースト116

ホームページもご覧ください…  [www.miyasakanao.net](http://www.miyasakanao.net)

令和3年9月1日(水曜日)

# 外国人観光客受け入れへ 多言語案内板を整備

宮坂議員 今後の観光振興を進めるにあたり、多言語の観光案内板等の整備状況は?

観光企画課長 県では、「繰り返し選ばれる国際観光化など、外国人観光客の受入れはどうか。

光県CHIBAの実現に向け、観光案内板の多言語化などを、外国人観光客の受入れを進めています。

入体制整備を進めてまいりました。具体的には、県が設置した観光地の案内板や主要幹線道路の誘導標識について、英語2か国語とピクトグラムを活用したデザインへの改修を令和2年度までに完了したところです。

併せて「観光地魅力アップ整備事業により、市町村や民間事業者が行う観光案内板等の多言語化についても支援しているところです。内板一つをとってもおもてなしの気持ちを持つことで、外国人観光客の受入れを進めることが

訪れたいと思ってもらえるきっかけに繋がるのではないかと考えます。

千葉県での多言語整備についても支援しているところです。必要な市町村には支援をしていただけますように要望する。

宮坂議員 様々な相談窓口で受ける初期相談窓口で、生産性や心の健康を高め、より良いワーク&ライフスタイルを実施することができます。そのため、今後はこうしたニーズに応える観光コン

# 持続可能な観光千葉へ



千葉県の観光振興について、県の施策を質問する宮坂県議

宮坂議員 「日本版持続可能な観光ガイドライン」をどのように普及促進していくのか。

観光企画課長 新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中、団体旅行やインバウンドに期待することができ難しくなるなど、観光を取り巻く環境は大きく変化していくものと考えられます。

こうした中で、県では、今後の観光振興を図る上で、旅行者の満足度を高めるだけでなく、地域の自然や暮らしも豊かにしていくことを「持続可能な観光」、「サステナブル・ツーリズム」が重要になると考えており、国のガイドラインも活用しながら、市町村や観光関係団体等と連携取り組んでまいります。

千葉県は、東京都に隣接しながらも豊かな自然に恵まれており、サステナブル・ツーリズム、とりわけ、ワ

ークエーションやマイクロツーリズムなどのニーズが高まる中で、大きなチャンスを迎えています。

このため、今後はこうしたニーズに応える観光コン

# ワーケーションに注目

一ケーションやマイクロツーリズムなどのニーズが高まる中で、大きなチャンスを迎えています。

このため、今後はこうしたニーズに応える観光コン

一ケーションやマイクロツーリズムなどのニーズが高まる中で、大きなチャンスを迎えています。

このため、今後はこうしたニーズに応える観光コン

一ケーションやマイクロツーリズムなどのニーズが高まる中で、大きなチャンスを迎えています。

このため、今後はこうしたニーズに応える観光コン

# ふるさと納税 返礼品に一考を

宮坂議員 令和2年度の県民によるふるさと納税は約70億1000万円、これに対し、本県への近年の寄付金は、年間約50万円から200万円程度となっており、控除された金額に比べ、寄付額が大変少なくなっています。

そこでうかがうが、県のふるさと納税の考え方、方向性はどうか。

税務課長 県では、寄附金制度の本来の趣旨を尊重し、返礼品に頼らない制度の運用を行っているところであります。

宮坂議員 要するに、本県の基

テンツの開発などを支援していく、本県観光の魅力の充実に努めています。

このため、今後はこうしたニーズに応える観光コン

テンツの開発などを支援していく、本県観光の魅力の充実に努めています。

このため、今後はこうしたニーズに応える観光コン

テンツの開発などを支援していく、本県観光の魅力の充実に努めています。

このため、今後はこうしたニーズに応える観光コン

# セルフネグレクト

## 対応力強化 相談窓口の

あるワントップ相談窓口の開設など支援策を充実していくべきと考えるがどうか。

このため、今後はこうしたニーズに応える観光コン

あるワントップ相談窓口の開設など支援策を充実していくべきと考えるがどうか。

このため、今後はこうしたニーズに応える観光コン

このため、今後はこうしたニーズに応える観光コン